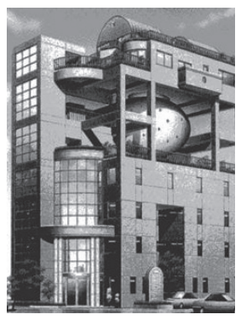
# 人は楽しむために生まれてきた

## 日本国民への提言 ⑥③

たまごビル院長　石垣　邦彦



〒581-0061
大阪府八尾市春日町1-4-4
電話072（991）3398
FAX072（991）4498
ホームページアドレス
http://www.tamagobl.com/

たまご理論で病気のしくみを考える

**日本の国民一人ひとりが、自らの「からだ」の「しくみ」を生かすことで日本を再生する**

前回9月号では、政治家の英断を求めました。非常に大事なことですのでその部分を再掲させていただきます。

**【政治家は、自らの「からだ」で腑に落とし英断を】**

政治家は医学の素人であっても、人類としての「からだ」の持ち主であり、40億年の歴史をもつ「からだ」の主人公です。

「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態を自らが体験することによって、どうすればいいか、自らの「からだ」で腑に落とす必要があります。

日ごろから、自らの「からだ」に注意を向けていれば、ノーベル賞受賞者・本庄Drが指摘されるように、インフルエンザワクチンは効果がほとんどないのは明らかです。しかし、副作用は一定の確率で必ずおこります。

政治家が「新型コロナウイルス」について効果的なワクチンができるというような安易な約束をすること自体が非常に大きな問題を生むことになります。

軍の中枢が、当時の政治家が負け戦と分かっていながら、あいまいなまま時代の波にのまれて大東亜戦争に踏み込んだ時と同じような誤りを犯すことになります。

金融の専門家が実体経済と乖離しているのにいつまでも株と土地の値が上がり続けるような錯覚をした結果のバブル景気であったり、リーマンショックであったりすることになります。

素直に物事を観ればわかることですが、なかなか素直にみることはむつかしいことです。

国民はもちろん、特に政治家は自らの「からだ」をコントロールする術を身に着ける必要があります。科学的なあいまいさがある専門家の提案の中で、どう本質をとらえるか。自らの「からだ」を通してその術を身に着ける必要があるのです。

いつまでも、「感染をなくしてしまう」という空想に浸っている限り、生活と経済を立て直すことなどできません。

以上が前回の締めくくりの文章です。政治家は、ゼロリスクをもとめてはいけません。政治家だからこそ、問題の本質を見極め、真実を国民に知らせ、説明し、こことというときには国民を強力に導く必要があります。新型コロナウイルスについては、今まさにその時です。

**【感染しても、重症化しない「からだ」をつくることが必要】**

そのためには、わたしたち人類にすでに備わっている「からだ」の「しくみ」を理解し、体感し、腑に落とし活用することです。そのことによって日本のみならず世界人類が救われることになります。

わたしが大阪万博の基本理念にこの考え方が必要であるとする理由がそこにあります。

# たまご保育園 日本の宝を育む

その「からだ」の「しくみ」とは

「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態

＝「上腹部がやわらかい」状態

＝「呼吸・循環・自律神経・人体力学・内臓全般の動き」が良い状態

＝「総合的免疫力」がある状態

＝「自然免疫・獲得免疫」よく働く状態

＝「自然治癒力」がある状態です。

それらに密接な相関関係のあることがわかりました。

「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらかない」状態の結果として各種の病気になるわけですが、今までの人類の医療は、その結果としての病気を部分的に診断・治療する医療が主体でした。

しかし、それでは費用がかかるばかりで、これから必要とされている予防とケアーを中心におこなう医療ではありえません。そのような結果としての病気を部分的に診断・治療する医療ももちろん必要ですが、これからは「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態を基準にして診断・治療・予防・ケアーする医療が必要です。

その考えのもとで新型コロナウイルス対策としては本紙4月号から9月号までを、ワクチンについては、『現代医学のすばらしさを生かし、その問題を解決する』と題し、ワクチンについての根本的な対策を述べました。30年11月15日号、31年2月15日号をご参照ください。

たまごビルを検索して、河内新聞欄でご覧ください。

パラダイムの転換が必要です。かって事の真理が分かって、天動説から地動説に考え方が大きく変わった歴史があります。

「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらかない」状態がひきつづき、その結果として生じた病気を部分的に診断・治療するという今までの医学の考え方を変えてゆく必要があります。

その真逆である「からだ」の「しくみ」がスムーズに「はたらく」状態を診断・治療・予防・ケアーする医学に転換する必要があるのです。

**【たまごビル・たまご保育園が医療と生活の突破口を開く】**

たまご保育園は、8月29日（土）夏祭りを行い、そうめん流しをしました。10月11日(日)には運動会を行いました。みんなで、綱引き等、泣き笑いの中で楽しみました。

間違った情報のもとで、萎縮した日本人のこころと行動をなんとかしなければならないと思ったからです。

たまご保育園では、新型コロナウイルスさわぎがあってもずっと開園しています。本紙を見ていただければその理由がよくわかります。ありがたいことに世の中もその方向に向きつつあります。

今日は夏祭りと運動会の様子をごらんください。元気が出ます。

運動会　がんばるぞ集合写真

綱引き　よいしょ・よいしょ

そうめん流し

夏祭り　理事長の誕生日とたまたま重なる

大阪万博に基本理念を提案する ⑮